

第1回 豊浦町総合戦略策定会議 議事概要

開催日：平成27年6月1日(月)

時間：17:00~19:00

会場：豊浦町役場 3F 第一会議室

参加者：

(委員)

所属	氏名	出欠
いぶり噴火湾漁業協同組合豊浦支所 礼文青年部長	山形 雅樹	出
とうや湖農業協同組合女性部 豊浦支部長	平池 裕子	出
豊浦町商工会 青年部長	大西 宏征	欠
東海大学 教授	谷本 一志	出
伊達信用金庫 地域経営支援チーム 推進役	片桐 崇意	出
北海道銀行 伊達支店長	腰原 久郎	出
豊浦町郷土研究会	小西 重勝	出
街づくりアドバイザー	伊東 徹秀	出
北海道指導農業士・新規就農者支援員	山田 洋之	出
豊浦町子ども・子育て支援会議委員	大久保 尚美	出
公募	奇本 義雄	出
公募	鵜野 久美子	欠

(オブザーバー)

北海道胆振総合振興局 地域政策部 戦略策定支援担当部長 高見 芳彦
町長 村井 洋一
副町長 小川 英紀

(事務局)

総務課 半澤 豊、竹島 英和

(業務受託業者)

パシフィックコンサルタンツ(株) 北海道支社 泉水 良之、板橋 秀行、中川 貴裕

主な意見（人口減少が地域に与える影響について）：

- 人口減少は悪いこととは限らない。適正な人口まで戻っているという考えに立てば、これからは、人が2倍も3倍も活躍する少数精鋭の社会となる。
- 学校の先生やお寺のお坊さん、行政など、人口が減ると職業がなくなりそうな人たちは心配するが、ホタテを採っている人たちにとって人口は大した問題ではないのです。豊漁で中国がたくさん買ってくればそれでよい。イチゴを作っている人にとっては商店街に草が生えていようと、豊作で、それが国際商品として売ればそれでよい。
- 豊浦町に移ってきたら子供の小児ぜんそくが治るというデータがあったら、「豊浦町において」と言える。「空気がリハビリセンターだ」という言い方だってある。
- 良いところをみつけて、減っていくことより、良いところを膨らませておぎ直そうという発想を持って我々は行きたい。国はもとより、町が主体となって、「ここにはこれだけ素晴らしいものがあるのですよ」というものを作った方がよいのではないか。
- 農業は、漁業とは全く逆方面で、減少の一途を辿っている。行政、国としてもやはり新規就農を入れていきなさいと、人口を増やしていきなさいという形があるが、田舎に住んでいると、空気感や考え方が違うなど、他から入ってくるのを嫌う傾向にある。一方で国は、農業を大規模化して、国際競争に勝てるようにしていきなさいという。矛盾しているところがあり、後継者もいなく、あと10年程度で辞めようという一番多い層の世代が今後どうしていけばいいのか。支援はこちらの方には向かず、ただ辞めていくだけになっていくのではないか。そこの歯止めをかけていかないとますます減る一方だと思う。
- 幼稚園と保育園が一緒になって認定こども園になってから、保育園に入る定員の関係でいろいろなことがあった。以前の保育園の時は、就労の有無に係わらず入園できた。ホタテの耳吊りの時期に女性の人手が必要という時でも人手が足りなく困っているという話は聞いたことがなかったが、長期間就労していないと保育園に入園できないという関係で、耳吊りだと期間が限定してしまうため入園できず、人手が足りないという話を聞く。あとは、今年の3月頃は、就労していても就労時間の関係で保育園に入園できなかったという話がある。就労時間の短時間・長時間の枠組みができて、入園できなかった人たちがいる中、保育園に行きにくく感じる。
- 保育園の先生を増やしていかないと、子供を保育園に長時間預けるにしても先生が足りないという話を聞く。せっかく入った先生も辞めていっている現状があるので、先生の人員を確保し、親が働きたいと思った時に、すぐに保育園に入園できる形にしていくようにしていただければと思う。
- ご商売されている方といろいろお話しするのですが、今は気持ちが落ち込んでいる。伊達市でご商売されている方の決算の数字を見ていますと、決して仰っているほど下がってはいない。ただし、例えば年間の売り上げが変わらないとしても、利益の幅がどんどん小さくなってきている。ただ気持ちがどんどん落ち込んできており、新しいものにどんどん取り組んでいこうという気持ちが起きてない。
- 人口が減ってくると、買い物客が少なくなるが、人口の減少率と、店舗数の減少率があわないと、1軒当たりのお店の利益がそれだけ下がる。
- RESAS のデータと見たとき、正しいデータだが、データに振り回されてしまう。気持ちが

落ち込んでいる今、上に向かっていく気持ちにならない。

- これ以上減らさない、現状維持もしくは多少維持するためにはどのようにしていけばいいか、というのを考えなければいけない。そのためには、これからどうしても高齢者が増えていく形にはなるとお思いますので、若い世代に地域に残ってもらう対策であったり、若い世代が地域に残って仕事をしているというイメージを持っていただけるような組織体制づくりというのが必要になってくる。その中にはやはり、いろいろな働くところも必要になってくる。
- 大岸地区は、人口は減っているが、最近保育所ができて、楽しい雰囲気になった。
- 若い方となかなかコミュニティをつくらない。定住の方もいるが、なかなか地域と接触がない。人口は間違いなく減るが、あまりにもコミュニティづくりで年齢構成のバランスが悪すぎる。自治会活動でさえも実際できない状態となってきた。
- 豊浦町は小幌駅という、20年以上日本一の秘境駅がある。そこに若い人が結構来ている。
- 除雪に困るような地区がある。国道から入ると自分の家の土地なので、そこは自分たちで除雪するという感じになっている。
- 空き家が増えている。やはり空き家が多いと不審者などが一番心配である。



第1回策定会議の様子